

国語科のお話（第2回）

今回は、説明文についてです。子どもたちは、説明文についても1年生から6年生までに様々な説明文に出会います。

低学年では、説明文には質問と答えがあることを学習します。

中学年では、説明文には、「はじめ」「中」「終わり」の3部構成になっていることを学習します。

高学年では、説明文には、筆者の言いたいことが書かれていることを学習します。

細かい指導は、学校の授業で指導していきます。お笑い芸人のギャグではありませんが、「ちょっと待て、ちょっと待て、〇〇ちゃん、□□って、何ですか。説明してね。」と聞いていただくと有難いです。別に漫才形式でなくても大丈夫です。説明文には、問いと答えがあることを普段の生活の中で身に付けさせたいからです。質問に対して、答えるだけです。これは、会話での質問と答えですが、これを文字で表すと立派な説明文になります。会話のままだと、立派なプレゼンテーションになります。説明文の「中」には、例を3つぐらい挙げればよいのです。これは、授業でおさえます。質問は、身近にあるもので大丈夫です。お子さんが答えを見つけられれば、大成功です。お子さんの論理的思考力向上のためにご協力ください。